

安心して暮らせる、温かいまち 「粒江」をつくろう



旧粒江小学校跡：現在は粒江幼稚園、テニスコート、公園となっています
(粒江マップウォーキングの様子)

No33 2008 年設立

粒江地区社会福祉協議会

粒江地区社協設立から 小地域福祉活動計画策定まで

平成27年7月4日
くらしき健康福祉プラザ
5階 プラザホール

粒江地区社会福祉協議会

粒江地区社協の設立

- ・平成20年8月23日に粒江小学校体育館において「粒江地区社会福祉協議会」の設立総会が開かれ、倉敷市で33番目の地区社協となりました。

粒江地区(粒江小学校区)の紹介

- ・粒江地区は、葦高、西、天城などの小学校区に隣接し、田園風景が広がる地域で、源平の古戦場などの史跡を有しています。
- ・近年は、学区の人口も増加し、粒江小学校の児童も増加していますが、一方で高齢化も進んでいる状況にあります。
世帯数:2,742戸 人口:6,950人(うち65歳以上:1,911人)
65歳以上の比率:27% (27年3月末現在)

粒江地区社協の構成メンバー

平成27年度

組織・団体名	人数	組織・団体名	人数
コミュニティ協議会	9名	環境衛生協議会粒江支部	2名
民生・児童委員協議会	9名	交通安全協会粒江支部	1名
愛育委員会	5名	栄養改善協議会	1名
老人クラブ	1名	防犯組合連合会	1名
農業土木委員会	1名	スポーツ推進員	1名
倉敷消防署粒江分団	1名	地域安全推進員	1名
保護司	1名	青少年を育てる会粒江支部	1名
いきいき子ども支援の会	1名	ボランティア	3名
			39名

粒江地区社協の活動(主なもの)

年間 事業

- ・粒江マップウォーキング・敬老慰安活動(友愛訪問)
- ・小地域福祉ケア会議([地域の課題解決ルートの策定](#)、社会資源マップづくり、サロン活動の推進ほか)
- ・自主防災組織づくり・地区社協だよりの発行
- ・粒江夏祭り(地区社協の店出店)
- ・小地域福祉活動計画の検討(H26～)

メニュー 事業

- ・福祉講演会(防災、自主防災、防火、防犯、交通、救命救急、認知症講演会ほか)
- ・福祉施設との交流(浮洲園納涼祭、浮洲園もちつきなど)
- ・ふれあい会食会(栄養改善教室)
- ・ふれあいフェア(募金、ミニ健康展、健康相談、オセロなど)
- ・ふれあい福祉運動会(車椅子の取扱い、地区社協個人競技)

小地域福祉活動計画の検討について

- ▶ 粒江地区社協は、コミュニティ協議会ほか既存の組織などと連携し、福祉の視点の事業も取り入れながら、年間事業や市社協のメニュー事業として取り組んできた。
- ▶ 設立5年目ごろから、取り組んできた事業内容について振り返ったとき、地区社協の事業として相応しいのかと考えるようになった。
- ▶ このため、平成25年度の年間事業計画に「小地域福祉活動計画の検討」として初めて組み入れていたが、具体的に検討を始めたのは平成26年度からとなった。

小地域福祉活動計画の検討・作成のポイント

1. 現状を分析し、3年後、5年後の地区社協像を描く
2. だれが困りごとを解決するか、具体的な取り組みを
3. 多くの関係者(住民)が活動を理解し、活動に広がりをもたせる
4. 計画策定・実施にあたって関係者の負担を増やさない
5. 検討会議も地区社協役員会を含めて1H30M以内に

平成26年度から具体的に
検討を開始！



小地域福祉活動計画策定への取り組み(26年度～) ①

- ・ 5/24 新井先生、市社協の秋田さんと田中で、粒江地区社協における計画策定手順等について協議した。
⇒ 6/20小地域福祉ケア会議で計画策定を進めることとした。
- ・ 6/20 田中からケア会議メンバーに対し、策定に取り組むことを表明。新井先生から粒江における進め方について説明いただいた。
- ・ 7/18 新井先生の手順をもとに、地域の困りごと等をラベルに書き出し、課題等が洗い出された。
これだけでは不十分なので、粒江夏祭りでアンケートをとることとした。

小地域福祉活動計画策定への取り組み(26年度～) ②

- ・ 8/16 粒江夏祭りで、アンケートを実施。(大人、子ども)
- ・ 10/17 夏祭りのアンケート結果について説明。以前検討した課題に加えることとした。
- ・ 1/23 前回作成したものに夏祭りのアンケートの内容等を加えて課題等を分類し、取り組むべき方向を協議した。
- ・ 4/17 前回協議・検討した内容について、取り組むべきことなどをさらに整理し、大筋取り組み内容が決定した。
- ・ 6/5 活動計画の項目(体系図)や具体的実施内容(個別実施計画)について大綱決定した。

小地域福祉活動 計画説明会



平成26年6月20日 デイサービスセンター 浮洲園

地域の課題、問題 ニーズ等の抽出

いろいろと
課題が出
てきました

問題等の原
因は?

課題等を書
き上げて

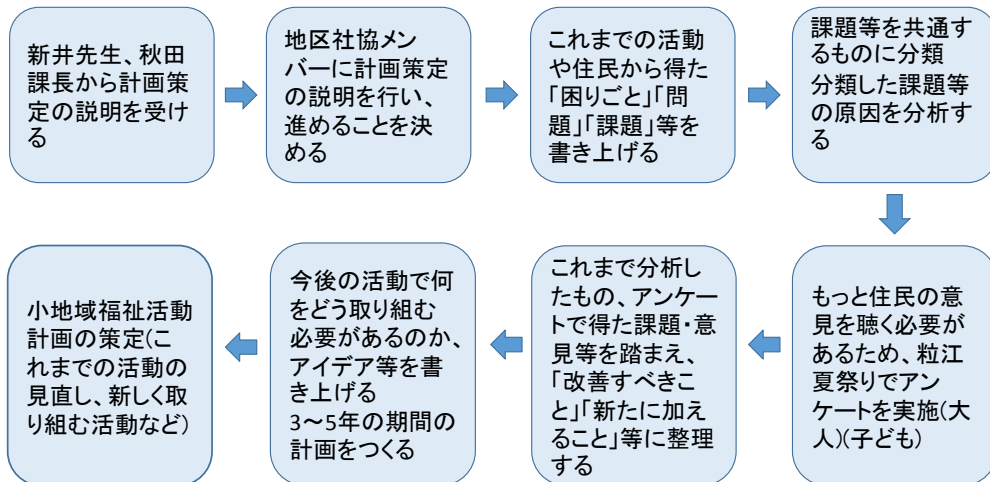
共通する内
容のものを
まとめて

見出しを
つけて



小地域福祉活動計画策定手順

粒江地区の場合



小地域福祉活動計画の実施にあたって

- 小地域福祉活動計画に基づき計画を実施するためには、関係する組織等と十分に協議・調整する必要がある。
- ボランティア活動であることを念頭に置き、ムリのない活動にする。
- 計画策定後も実施状況等をチェックのうえ必要により計画を調整するなどの対応を行う。



ご清聴ありがとうございました。

小地域福祉活動計画 体系図

<課題・問題・ニーズ等の洗いだし>

- ・地域活動をする人が決まっていて新しい人が入らない。
- ・世帯は増えているが若い人が地域の活動に入っていない。
- ・子ども会の活動が低調で子ども会から地域活動につながらない。



<検討課題・ニーズ等>

地域活動に新しい人(若い人)が入っていない。



- ・近隣の人と話す機会や繋がりがなくなってきた。
- ・人と関わることに消極的な高齢者が多い。
- ・高齢者などが少人数で集まる場がない。
- ・そんなに高齢でもないのに外出しなくなった。
- ・同世代の集まる機会が少ない。
- ・高齢者が憩える場所がほしい。
- ・閉じこもりがちな人を誘うことができるサロンがない。
- ・定年退職したが地域とどう関わっていいかわからない。
- ・地域の人との付き合いを持ちたがらない人がある。
- ・困りごとがあっても相談する人がいない。



若い世代や高齢者など地域の方が集まれる場が少ない。



- ・子育て中の人交流する場がない。
- ・子育てについて相談するところがない。
- ・子育てしているお母さんが地域と触れ合う場がない。
- ・赤ちゃんや幼児が集まれる場がない。



子育て世代、赤ちゃん、幼児などを支援する仕組みや方策が不十分である。



<目標>

<実施事業(概要)>

地区社協の活動、取組み等について積極的に発信します。	1 地区社協だよりの発行(地区社協)[継続] 2 福祉講演会の開催(地区社協、コミュニティほか)[継続]
地域活動の活性化と人材を発掘するための方策を実施します。	3 子ども会活動の支援(地区社協、コミュニティほか) 4 人材発掘イベントの開催(例:バーベキュー大会)の実施(地区社協、コミュニティほか)
地域のいろいろな世代の人が気兼ねなく集まれる場所や話し合い、相談ができる場所をつくりまします。	5 3世代交流クッキング【郷土料理を伝える】(地区社協、高齢者支援センター、栄養改善)[継続:内容を見直し] 6 ちょい悪おやじサロン(地区社協、コミュニティ、栄養改善、高齢者支援センター、学区内関係組織) 7 いきいきふれあいサロンの開催(地区社協、高齢者支援センター)[継続] 8 ふれあいカフェの開催(地区社協、栄養改善、高齢者支援センター)
スポーツやイベントを通じて、地域の世代間の交流を図ります。	9 夏祭り(地区社協、コミュニティほか学区内関係組織)[継続] 10 ウォーキング(愛育委員会、学区内関係組織)[継続] 11 ふれあい福祉運動会(地区社協、学区内関係組織)[継続]
子育て世代や赤ちゃんなどについて、地域の関係者で協議・連携して、優しいまちづくりに取り組みます。	12 赤ちゃんサロン【子育てサロン】(愛育委員、民生児童委員、主任児童委員、地区社協、保健所、子育て支援センター) 13 地域で子育て応援会議(地区社協、倉敷保健推進室、子育て支援センターほか)

小地域福祉活動計画 体系図

<課題・問題・ニーズ等の洗いだし>

- ・独居高齢者に何があってもわからない。
- ・人を寄せ付けない高齢者がいる。
- ・高齢者の移動手段がない。
- ・高齢になったら、買い物に行けなくなって困る。
- ・認知症のサポーターがいない。
- ・自分の家が分からなくなった人がいた。
- ・認知症の人が安心して暮らせない。
- ・認知症の人の交通事故が心配である。



<検討課題・ニーズ等>

高齢者や弱者などを支援する仕組みや方策が不十分である。



- ・災害時に要介護者等の情報がない。
- ・水害時に避難場所に行くことができない。
- ・災害の情報が入らない。
- ・災害マップがない。
- ・自主防災組織がない。
- ・子どもの安全確保の仕組みがない。
- ・不審者の出没情報がある。
- ・通学路の安全確保が不十分である。
- ・車の交通マナーが悪い。
- ・スマホ、携帯を操作しながら自転車等に乘っている。
- ・バイクの音がうるさい。
- ・吉岡川、倉敷川などで外灯が欲しいところがある。



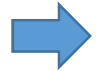
防犯や防災、交通安全に関する取り組みや方策が確立されていない。



- ・道路が危険な箇所がある。
- ・自転車で通行するとき、車との距離が狭く危険である。
- ・吉岡川の堤防で車がスピードを出すので危険である。
- ・河川敷等にゴミを捨てる人がいる。
- ・ゴミ出しのマナーを守らない人がいる。
- ・犬の糞の後始末をしない人がいる。
- ・道路にゴミを捨てている。
- ・環境の会費を払わない人がいる。



道路、河川へのゴミ捨てや道路の不安全箇所等の問題がある。



<目標>

高齢者や弱者について、地域の関係者で協議・連携して優しいまちづくりに取り組みます。

<実施事業(概要)>

14 お困り高齢者応援会議【小地域ケア会議】(高齢者支援センター、地区社協、)[継続:内容を見直し]

15 お困り高齢者お手伝い隊(地区社協、高齢者支援センター学区内関係組織)

16 認知症サポーター(地区社協、高齢者支援センター、学区内関係組織)

17 友愛訪問(愛育委員会))[継続]

防犯・防災などについて、地域の関係者で協議し、連携して安全・安心のまちづくりに取り組みます。

18 子どもの見守り活動の拡大実施(地区社協、コミュニティほか学区内関係組織)[継続]

19 自主防災組織づくり(地区社協、コミュニティおよび各支部ほか)[継続]

20 高齢者の詐欺被害の撲滅(地区社協、高齢者支援センターほか)

21 学区内の安全・安心マップづくり(地区社協、コミュニティ、学区内関係組織)

環境・交通設備などについて、地域の関係者で協議し、連携して住みよいまちづくりに取り組みます。

22 環境パトロールを実施(地区社協、環境衛生ほか)

23 道路等の危険箇所調査と改善活動の実施(地区社協、コミュニティほか学区内関係組織)

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		5 3世代交流クッキング（郷土料理を伝える）				
背景・課題・現状		（背景・課題） ・核家族化が進み、孤食が増えている ・栄養過多や食生活の欧米化などによる生活習慣病が増加している ・3世代が交流できる機会が減っている。高齢者との交流で、高齢者を尊敬し大切に思う気持ちを養う。 （現状） 会食会（年1回）、3世代交流（年1回）を実施している				
事業の実施主体		地区社協・高齢者支援センター・栄養改善委員				
事業内容	事業概要	・高齢者に郷土料理を若い世代に伝えていく役目を担ってもらい、食を通じて交流し、楽しい時間を過ごせるよう企画する。				
	詳細	・高齢者支援センターの委託事業の栄養改善教室（会食会）を、交流クッキングの打ち合わせを兼ねたものにする。高齢者に郷土料理を若い世代に伝えていく役目を担ってもらい、講師役となってもらふ。				
事業評価指標		・地域住民に定着し、安定した参加者数が得られる。				
年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標（数値）		会食会：25名 必ず参加（職員含む） 3世代交流クッキング： 毎年開催し 人数が少しずつ増える	会食会：25名 必ず参加（職員含む） 3世代交流クッキング： 毎年開催し 人数が少しずつ増える	会食会：25名 必ず参加（職員含む） 3世代交流クッキング： 毎年開催し 人数が少しずつ増える	会食会：25名 必ず参加（職員含む） 3世代交流クッキング： 毎年開催し 人数が少しずつ増える	会食会：25名 必ず参加（職員含む） 3世代交流クッキング：親子10組以上、 高齢者15名以上の参加者を得る

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		6 ちょい悪おやじサロン				
背景・課題・現状		(背景・課題) ・定年退職後、家に閉じこもり外出の機会が少なくなったり、いろいろな技能、能力を持っていても地域でそれを生かす場がない。 (現状) ・粒江には、定年退職した”おやじ”の集まれる「おやじサロン」等がなく、また、活動する場がない。				
事業の実施主体		・地区社協、コミュニティ協議会、栄養改善、高齢者支援センター、粒江学区内関係組織				
事業内容	事業概要	・定年退職者等の地域の方々の、これまでの職業経験、趣味等を活かした集いの場をつくる。				
	詳細	・定年退職者等の地域の方々の集う場として、これまでの職業経験、趣味や特技・技能等を活かした(好き者同士の)サークル活動を行なう。 例として、パソコン教室、写真クラブ(カメラ)、オーディオ教室、カラオケ、昔の遊び、屋外活動(キャンプ)、ドライブほかの活動を行う。 また、その能力を生かし、夏祭り、ふれあいフェアほか、地域の各組織等の事業への協力等を行う。				
事業評価指標		①ちょい悪おやじサロン実施に向けた調査・検討・協議。 ②ちょい悪おやじサロンへの参加者数。				
年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
目標 (数値)		①3 回	①4 回 ②5 人	①3 回 ②5 人	①3 回 ②10 人	①3 回 ②15 人

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		12 赤ちゃんサロン（子育てサロン）				
背景・課題・現状		（背景・課題） ・核家族化が進み、身近に育児を相談したり、助けてくれる人がおらず、不安を抱えたまま育児をせざるを得ない。 ・新しく越してきた世帯も多く、地域とのつながりを持っていない母親は孤立しがち。 ・出産、育児の不安を気軽に相談できる場が求められている。				
事業の実施主体		・愛育委員、民生児童委員、主任児童委員、地区社協、保健所 子育て支援センター				
事業内容	事業概要	・日々の子育てに悩みながら頑張っているお母さんや、出産を控え不安を抱えているお母さんたちが集い、気軽におしゃべりしながら悩みを相談したり、仲間を作ったり、情報交換できる場をつくる。				
	詳細	・0～2歳未満の赤ちゃんとその保護者（兄弟がいる場合は2歳を超えていても参加可）及び現在妊娠中の方を対象に、毎月1回の「赤ちゃんサロン」を開催する。 ・赤ちゃんが安全に快適に過ごせるよう環境を整え、お母さん方が、気軽に安心して参加できるように愛育委員、民生委員が中心となり、実施する。 ※2歳からは親子クラブへ移行。				
事業評価指標		・地域住民に赤ちゃんサロンが定着し、安定した参加者数が得られる。				
年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標（数値）		赤ちゃんサロンの開始	赤ちゃんサロンを毎月開催する。	赤ちゃんサロンが毎月開催され、参加者が増える。	赤ちゃんサロンが毎月開催され、参加者が増える。	赤ちゃんサロンが毎月開催され、地域に定着する。

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		13 地域で子育て応援会議				
背景・課題・現状		(背景・課題) 母子保健をとりまく状況は深刻化・複雑化してきており、虐待や発達障害等の多様な問題が増加している。多種多様なニーズを抱える親子が増加し、支援機関も増えている。少しずつ連携も取りやすくなってきている面もあるが、親子が暮らす身近な地域レベルでの密な連携がまだ十分にできていない現状がある。				
事業の実施主体		・地区社協、倉敷保健推進室、子育て支援センター				
事業内容	事業概要	誰もが地域で安心して子育てができる地域づくりのために関係者間で話し合い、地域に密着した課題の共有・情報交換・ネットワークを整備し問題解決の場として子育てを応援する。				
	詳細	- 地域の子育て支援に関する社会資源情報や課題の把握及び共有。 - 課題解決に向けての検討及び解決に向けた活動展開(赤ちゃんサロン立ち上げ等)				
事業評価指標		地域で子育て応援会議を開催し、地域の子育て現状を話し合い課題解決に向けた話し合いと開催ができる。				
年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
目標 (数値)		子育て応援会議の立ち上げに向けた調整を関係者間で行う 並行して赤ちゃんサロン立ち上げに向けて話し合いを行い、第一回を開催する。	子育て応援会議の定期開催を話し合い決定する。 赤ちゃんサロンの定期開催。	子育て応援会議の定期開催 赤ちゃんサロンの定期開催	子育て応援会議の定期開催 赤ちゃんサロンの定期開催	子育て応援会議の定期開催 赤ちゃんサロンの定期開催

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		14 お困り高齢者応援会議（小地域ケア会議）			
背景・課題・現状		（背景・課題） ・高齢化が進む中、公的サービスだけでは生活を維持していくことが難しくなっている。最後まで住み慣れた地域で安心して生活していけるよう、地域に根差した高齢者支援のネットワーク体制の構築が求められている。			
事業の実施主体		・高齢者支援センター、地区社協			
事業内容	事業概要	・高齢になり心身機能が衰えても、住み慣れた粒江地区で安心して生活を継続できるよう、お困り高齢者の課題解決に取り組む。			
	詳細	・お困り高齢者の個々の課題解決に向けて、関係者、専門職等が集まり支援について話し合う場を持つ。そして、その課題が、粒江全体の課題として共通なものである場合は、粒江全体課題として地区社協全体で取り組む課題として展開していく。			
事業評価指標		・個別ケースケア会議を開催し、お困り高齢者の課題が解決できる。 ・個人の課題を地域全体の課題へと発展させることができる。			
年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
目標（数値）	会議を年 3 回以上開催する。 ケアマネジャー等の専門機関の事例を使う。	会議を年 3 回以上開催する。	3 回	3 回	3 回

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		15 お困り高齢者お手伝い隊				
背景・課題・現状		(背景・課題) ・高齢化に伴い、地域の高齢者も増加する中、一人暮らし・夫婦ふたり暮らしの高齢者が増加している。 ・ちょっとしたことで困っている。(電球の取替え、草とり、タンスを動かしたい、荷物を2階まで等々) ・団塊世代の定年後の人材を地域に生かすことはできないか。団塊世代の定年後の活躍の場を地域に作ることはできないか。				
事業の実施主体		・粒江地区社協、高齢者支援センター、学区内関係組織				
事業内容	事業概要	・日常生活のちょっとした困りごとを手伝うボランティアを組織する。				
	詳細	(一般住民、夏休みの中学生など) ・高齢者等からお困りごとの相談を受け、ボランティアを派遣するまでのシステムを作り、ボランティアを募る。				
事業評価指標		・お手伝い隊のシステムができ事業がスタートし、実際にお手伝い隊を派遣し、困りごとの解決を図る。				
年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
目標 (数値)		お手伝い隊員を募る お手伝い隊の規約、コーディネーター役と調整方法等を決める	要支援者を募る お手伝い隊の出動を開始	お手伝いの活動 5 件	お手伝いの活動 10 件	お手伝いの活動 20 件

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		16 認知症サポーター養成				
背景・課題・現状		(背景・課題) - 認知症の人の割合は年々増加傾向にあり、粒江地区においても同様に増加していくと考えられ、認知症の人も住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような地域づくりが求められている。 (現状) - 実際に認知症の人はいるが介護サービスを利用しており、地域の人が見かけることが少なく、認知症の問題意識が低く、いざ徘徊等の問題が発生した時に対応の仕方が分からず戸惑う。 - 高齢者支援センターが認知症サポーター養成講座を実施しているが、参加者が少ない。				
事業の実施主体		地区社協、高齢者支援センター、学区内関係組織				
事業内容	事業概要	認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援する認知症サポーターを増やす。				
	詳細	- 各団体組織がメンバーに集合をかけ、日程が決まったら高齢者支援センターへ連絡し認知症サポーター養成講座を受講する。 - 受講修了者を把握し、今後の認知症への取り組みに備える。				
事業評価指標		認知症サポーターの受講修了者の数を増やす				
年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
目標（数値）		講座 3 回以上 新規受講者 年 30 人	講座 3 回以上 新規受講者 年 30 人	講座 3 回以上 新規受講者 年 40 人	講座 3 回以上 新規受講者 年 40 人	講座 3 回以上 新規受講者 年 40 人

粒江地区 小地域福祉活動計画－実施計画

実施事業		21 学区内の安全・安心マップづくり			
背景・課題・現状		(背景・課題) ・粒江ではいろいろな組織が、社会資源、自主防災、子どもの見守り、危険個所の把握などの取り組みを行っているものの、その成果を活かせていない。 (現状) ・これまでに、それぞれの組織等がマップづくりをしているが、一元的にまとめたものがない。			
事業の実施主体		・地区社協、コミュニティ協議会、学区内関係組織			
事業内容	事業概要	・粒江の各組織等が行っている、自主防災に係る避難箇所、子どもの見守り活動、道路等の危険個所の把握等の成果をまとめる。			
	詳細	・粒江の各組織等と連携し、自主防災に係る避難箇所、子どもの見守り活動、道路等の危険個所の把握等の成果をまとめた、学区内の安全安心マップを作成する。 ・具体的には、災害時の避難箇所、避難経路、子どもの見守りにかかる防犯注意箇所、交通および設備に係る危険個所等を記載した「学区内の安全・安心マップ」を作成する。 ・これらの成果を学区内の住民に周知する。			
事業評価指標		①「学区内の安全・安心マップ」作成に係る調査・協議・検討。 ②「学区内の安全・安心マップ」作成会議。 ③学区内住民への周知。			
年度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
目標（数値）		①3 回	②3 回	② 2 回	② 2 回
					③ 1 回